



平成29年5月10日
海上保安庁

西之島の噴火について（5月2日観測）

5月2日午後1時00分から午後1時45分の間、当庁羽田航空基地所属航空機MA722により、西之島の火山活動の観測を実施しました。

1.火山活動の状況

火口内に形成された新火砕丘中央では、約40～60秒間隔でストロンボリ式噴火[※]が発生し、灰色の噴煙が南西方向に、新火砕丘頂上からの高さ約500mまで放出されていました。 [※]ストロンボリ式噴火：非爆発的な噴火

火口北側2カ所の溶岩流出口からは、溶岩が灰色の噴煙を上げながら流れ出て、島の南西岸から海へ流入していましたが、西岸では海への流入はありませんでした。(図2参照)

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「新火砕丘まで達しているマグマの最上部の位置が前回(4月27日)の観測時と比べて変化していないことから、マグマの供給は依然として続いていると考えられる。」

とのコメントが得られました。

引き続き、航行警報により付近航行船舶に注意を呼びかけています。

2.新たに形成された陸地の状況

溶岩流の先端が2カ所で海上に張り出し、昨年9月15日の海岸線に対して、西方向へ約170m、南西方向に約180m拡大していました。(図3参照)

<参考>

○5月2日時点での西之島の形状

- ・東西：約 2,000m (昨年 9 月 15 日時点 1,900m)
- ・南北：約 1,900m (昨年 9 月 15 日時点 1,900m)
- ・面積：2.75 平方 km (昨年 9 月 15 日時点 2.68 平方 km)

東京ドームの約 59 倍、平成 25 年 11 月の噴火以前の約 13 倍

○5月2日時点での旧島部分の面積

- ・約 0.004 平方 km (昨年 9 月 15 日時点 約 0.005 平方 km)



図1 西之島の噴火の様子 (5月2日撮影)

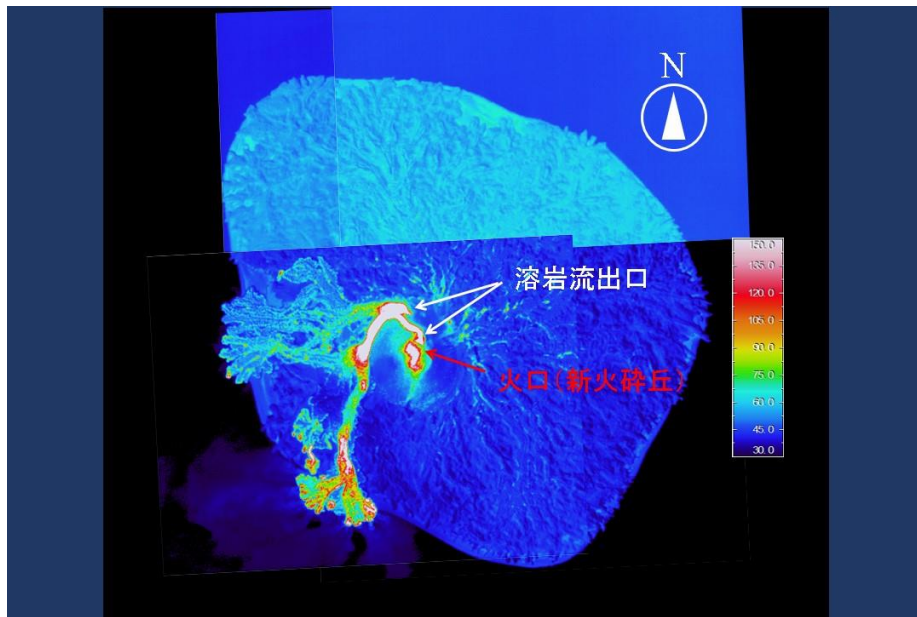


図2 熱画像の解析結果（5月2日撮影）
赤から白色が高温部分

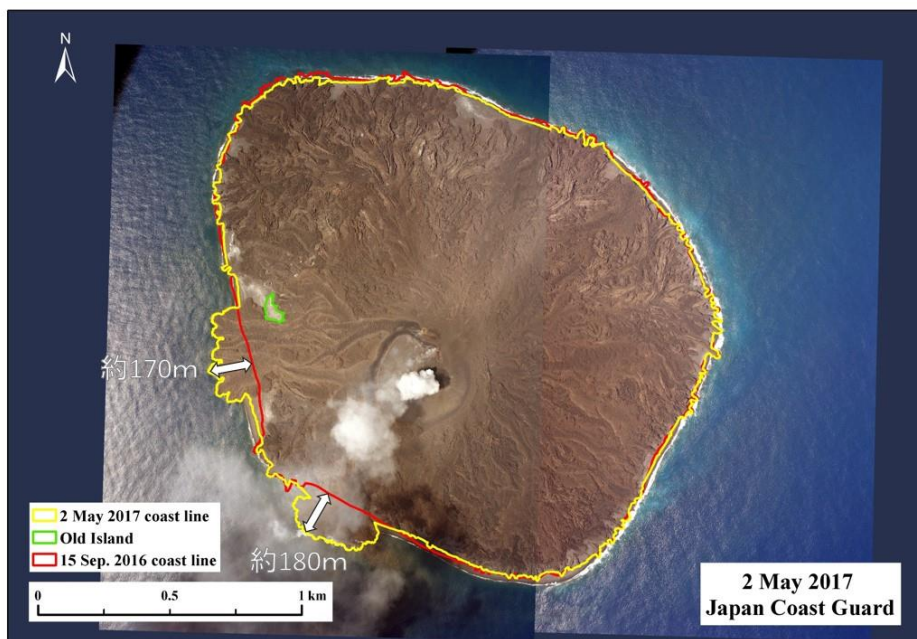


図3 西之島空中写真（5月2日撮影）
黄線：5月2日現在の海岸線
赤線：昨年9月15日の海岸線
緑線：旧島部分